

登録コード	L2241600	開講年度	2026				
担当教員	葛西 敬之			副担当			
授業科目	ドイツ言語文化発展演習VI						
英文授業名	German Language Culture: Advanced Seminar VI						
授業タイトル							
単位数	2	対象学生		講義期間	後期	曜日・時限	水曜・4時限
講義室	人文202演習室		遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			⇔	【授業の達成目標】		
	2022Lカリ, 2021Lカリ						
	【2022年度以降カリ対象】グローバル社会において、多様な文化を理解し、自らの文化を発信できる外国語能力			⇔	外国語を正確に読解する能力を身につけ、異文化をより深く考察できるようになる。		
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降カリ対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身についている。【思索力・受容力・批判力】			⇔	外国語を正確に読解する能力を身につけ、異文化をより深く考察できるようになる。		
	【2023年度以降カリ対象】必要な情報を的確に収集し、理解し、発信する力が身についている。【メディアリテラシー・コミュニケーションリテラシー・外国語能力】			⇔	外国語を正確に読解する能力を身につけ、異文化をより深く考察できるようになる。		
授業で学べる「テーマ」	芸術文化、多文化協働						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	20世紀ドイツ語圏スイスの文学を代表する作家ローベルト・ヴァルザーの『散歩』をドイツ語で精読し、現代におけるこの作品の意義を探究する。						
授業計画	講読に際しては毎回おおむね1-2頁ずつ進める。一、二文ずつ順に参加者に当てていき、当たった者は訳読に加えて文法および内容に関する注・説明を行い、他の参加者の質問に対しても必要に応じて回答する。 第1回：導入、文学史におけるヴァルザーの位置 第2回：Der Spaziergang講読 第3回：Der Spaziergang講読 第4回：Der Spaziergang講読 第5回：Der Spaziergang講読 第6回：Der Spaziergang講読 第7回：Der Spaziergang講読 第8回：Der Spaziergang講読 第9回：Der Spaziergang講読 第10回：Der Spaziergang講読 第11回：Der Spaziergang講読 第12回：Der Spaziergang講読 第13回：Der Spaziergang講読 第14回：Der Spaziergang講読 第15回：Der Spaziergang講読、アンケート						
成績評価の方法	平常点によって評価する。自らが担当になった際に十分に予習・準備をして臨みテキストを正確かつ批判的に理解できているか、また担当でない場合もしっかりと予習をし、かつ議論に積極的に参加しているか、これらが評価の対象となる。 授業の性質上、毎回予習をしたうえで出席することが前提となる（予習をしていない場合は欠席扱いとなる）。						
成績評価の基準	担当箇所の訳読及び議論への参加度に関しては、扱われるドイツ語テキストの7割程度理解でき、かつ議論において自らの意見を論理的に表現できればその水準にあるとする。テキストがほぼ完全に理解でき、かつ議論において、多様な視点からテキストを検討した上で自らの意見を論理的に表現できれば卓越しているとする。						
事前事後学習の内容	しっかりと予習すること。わからない箇所があった場合、どのような読解を試みて理解できなかったのか、説明できるようにしておくこと。 授業で扱われたテキストは、授業後に必ずもう一度読むこと。						
履修上の注意	ドイツ語文法の知識があることを前提とします。 目安としてはドイツ語検定2～3級程度（取得している必要はありません）、あるいは参考書の『必携ドイツ文法総まとめ』の黒字部分の内容がおおむね理解できる程度であれば、十分授業の進度についていくことが可能です。また、学期の初めにその水準に達していなくとも、テキスト自体が段々と難しくなるわけではないので、最初は少し大変でも努力すれば追いつくことも十分可能です。 構文を理解せず単語の意味を適当に並べて訳してしまう方は、参考書の『独文解釈の研究』等を用いて、その悪癖を絶って授業に臨むようにしてください。						

質問、相談への対応	メールにて受け付ける（メールアドレスはeALPSに記載）。
教科書	使用しない。プリントを配布する。
参考書	中嶋悠爾他『必携 ドイツ文法総まとめ』（白水社）2003年 阿部賀隆『独文解釈の研究』（郁文堂）1961年 その他、授業中で適宜紹介する。